滋賀県立
琵琶湖博物館
LAKE BIWA MUSEUM

第三次中長期基本計画（素案）　概要版

琵琶湖博物館の使命　存在意義／果たすべき役割

琵琶湖博物館は、人々が湖とともに生きることについて考えるための情報や機会を提供します。琵琶湖博物館はみなさんとともに、琵琶湖とその周囲の自然や湖とともにある暮らしの多様性や成り立ちについて探求し、発見したことを広く共有し、ともに学びあう場を創ります。また、貴重な資料を将来にわたって保管・継承し、多くの人々に使えるようにすることで、みなさんの活動を世代を越えて応援・継承します。

基本理念　活動の指針／どんな博物館を目指すか

- ●テーマをもった博物館
  「湖と人間」というテーマにそって未知の世界を研究し、成長・発展する博物館
- ●フィールドへの誘いとなる博物館
  魅力ある地域への入口として、フィールドへの誘いの場となる博物館
- ●交流の場としての博物館
  多くの人びとによる幅広い利活用と交流を大切にする博物館

琵琶湖博物館の使命から想定される10年後の社会の姿

多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく社会。誰もが日常の中で、湖との暮らしのより良いあり方を探求・実践でき、その成果を多くの人と共有する機会を持っています。また、さまざまな人々が出会い、学びあうことで新たな発見や活動の持続が可能になっています。

使命を果たすための計画的な発展（これまでの経緯）

琵琶湖博物館中長期基本計画（平成17年度～平成26年度）
「地域だれでも・どこでも博物館」

地域の人々とともに研究や資料収集・交流活動を行い、
地域で活動する人たちを応援できる博物館となる

↓

新琵琶湖博物館創造基本計画（平成27年度～令和2年度）
（第二次中長期基本計画）
「博物館の『木』から地域の『森』へ」

展示交流空間のリニューアルにより、より多くの人が使いやすい博物館を目指すとともに、さまざまな主体とのとの連携を広げ、より多くの人と共に「湖と人間」について考える博物館となる

↓

琵琶湖博物館第三次中長期基本計画
期間：令和3年度～令和12年度
（仮）「湖と共に生きる暮らしの中に、いつもある博物館」

国内外の多くの人々に琵琶湖やその周囲の暮らしの価値・魅力を発信するとともに、持続的な共存を目指す人々の活動を日常的に支える博物館となります。

第三次中長期基本計画（素案）　概要版

計画の構造：10年後の社会に貢献するために6つの事業目標を設定し、各事業目標の達成に必要な事業を重点事業として設定しました。

計画の運営：重点事業の進捗と事業目標の達成度で評価を行いながら事業を進め、5年目の中間段階で見直しを行います。

事業目標	重点事業
事業目標１　琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介 琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地元の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。	・世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進 ・研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える ・研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化
事業目標2　資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備 貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。	・標本・資料の管理体制の強化 ・標本・資料の整理の推進と公開による利用促進 ・ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出
事業目標３　みんなで学びあう博物館へ 交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の「出会い」が新たな活動につながる環境を創ります	・幅広いニーズに応える交流事業の充実 ・出会いの場の創出 ・「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援
事業目標４　もっと使いやすい博物館へ 琵琶湖を知る「入口」としての常設展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます。	・誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長 ・「観る」展示から、「観る＋使う」展示への成長 ・社会の変化を反映させた展示の成長
事業目標5　より多くの人が利用する博物館へ ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人の利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます。	・ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての琵琶湖博物館の紹介 ・双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映 ・来館しやすい環境の整備
事業目標６　博物館の活動を安定して継続する 老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます。	・老朽化した施設の改修と災害への備え ・安定した活動基盤を確保する仕組みづくり